LMcorsa

OTG MOTOR SPORTS ● INGING MOTORSPORT

A.Iida　H.Yoshimoto

60

RESULT　1回目 1分27秒711（16周目／36周）／クラス23位
2回目 1分28秒496（ 4周目／30周）／クラス30位

CAR　SYNTIUM LMcorsa RC F GT3

Official Test：OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT.　2017/03/18-19

General comment

今年第1回目となるAUTOBACS SUPER GTシリーズの公式テストが 3月18～19日に岡山国際サーキットで行われた。今シーズンも我がチームは昨年までと同様、LEXUS RC F GT3を使用することになったが、車両自体は一新された全くのブランニューカー。先頃シェイクダウンテストを行い、その後何度かプライベートテストを実施してきたが、今回の公式テストが新型車両「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」にとっては初の本格的なテスト走行となる。当日のメニューとしては、3週間後に迫った開幕戦に向けてのタイヤ選びが最大のものとなる訳だが、シェイクダウンしてまだ走行マイレージを稼げていない状況では、クルマの基本セットの方向性を見極めることも重要なミッションだ。

新型車両は昨年使用していたモデルから一新、最新のGT3車両に相応しいハイレベルなスペックで仕上げられており、飯田章と吉本大樹、ふたりのドライバーもこれまでのテストで明らかな手応えをつかんでいたようだ。ただし、良い手応えがあったからといって、その場に留まっていたならレースでは敗北を意味する。さらなる高みを目指して、新たなトライへのチャレンジも、今回は行われることになっていた。

初日となった18日、チームはその新たなチャレンジ――クルマの基本的なセットアップに関して、これまでとは違ったアプローチ、つまりより高いレベルに到達できるであろう基本セットをトライすることになったのだ。ただし、結果的にはこのチャレンジは、実を結ぶまでには至らなかった。新しい、そしてチャレンジングなタイヤを選び、これまでとは別のセットアップをトライしたのだが、限られた時間の中ではバランスよく合わせ込むことができなかったのだ。もっともっと充分な時間があれば、このチャレンジを続けて成功へと導くことも可能なはずだが、レースは決して待ってはくれない。そこで公式テスト2日目となる19日には、これまでのプライベートテストで好感触を得ていたセットに戻し、基準となるタイヤとの合わせ込みを進めて行くことになった。

イニシャル（基準）に戻すというのはレースにおいてとても大事な判断だ。そして、それが可能になったことも大きな進歩といっていいだろう。そう、「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は、決断すればすぐにイニシャルに戻すことができるようになっている。これもFIA-GT3カテゴリーのレーシングカーとして大きく進化した一例だ。また、信頼性が飛躍的に向上したのも事実。シェイクダウンから何度かのプライベートテスト、そして今回の公式テスト初日の2時間のセッション2回を通じて、ここまで大きなトラブルは皆無で、多くの走行マイレージを稼ぐことができたのもことも心強い限りだ。

LMcorsa

OTG MOTOR SPORTS / INGING MOTORSPORT

A.Iida　H.Yoshimoto

60

RESULT　3回目 1分26秒751（35周目／51周）／クラス12位
4回目 1分26秒868（ 8周目／62周）／クラス15位

CAR　SYNTIUM LMcorsa RC F GT3

Official Test：OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT.　2017/03/18-19

General comment

公式テスト2日目となった19日の日曜日。この日はサーキットのファン感謝デーも開催されており、岡山国際サーキットには朝早くから多くのファンが詰めかけていた。テスト走行セッションは午前の3回目が9時から2時間10分。そのうち最初の10分はSC訓練、つまりセーフティカーが導入された際のオペレーションを確認するためで、実質的な走行は2時間だ。午後の4回目が1時30分から2時間15分。同じく最初の15分間がスタート練習に充てられ、やはり実質的な走行は2時間が予定されていた。

前日と同様、この日も穏やかな日和に恵まれ、終日ドライコンディションに恵まれた。特に午後には路面温度が上昇し、3週間後の開幕戦本番で想定される温度域となったため、公式テストとしては最適なコンディションとなり、各チームともに精力的に走行を続けてテストメニューを消化していった。

新型車両「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」を投入した我がチームは、初日は新たなチャレンジとして、これまでとは全く違った基本セットをトライしていたが、限られた時間内では結果的に上手く合わせ込むことができなかったために、この日はイニシャル（初期値）の基本セットに戻して基準タイヤを装着。それに合わせ込みながらシャシーのセットアップを詰めて行く方策を執った。そして、その判断が正しかったことが結果から証明されることになった。朝のセッションでは吉本が終始精力的に走行を重ね、走行開始から36周目にこのセッションでベストとなる1分26秒751をマーク。これは前日のタイムを1秒以上も上回る好タイム。トップは25秒台だが、その差は1秒以内、状況はかなり好転してきた。午後のセッションでは飯田が最初にステアリングを握り、セッション半ばで吉本に交替することになっていたが、飯田は走り始めるとすぐにペースアップ。
8周目には早くもベストタイムとなる1分26秒868をマークし、その後吉本に交替した。セッション後半はロングランのテストメニューへ移行したためタイム更新はなかったが、快調な、そして安定したペースで走り続けた「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は、この午後のセッションで62周、朝のセッションと合わせると113周も周回を重ねることになり、セットアップも着実に進められている。

次の週末、3月25～26日に富士スピードウェイで開催される第2回の公式テストを経て、その2週間後にはここ岡山国際サーキットにおいて2017年シーズンSUPER GTシリーズ開幕戦の火ぶたが切って落とされる。今回のテストで得たデータ、そして掴んだ手応えを拠りどころに、チームは熱い戦いを見せるに違いない。

Driver's comment 1

ドライバー

飯田 章

Akira
Iida

http://akira.jp/

初日のチャレンジは、1日使って結果が出せなかったことから、無駄だったと見る人がいるかもしれませんが、今の自分たちにとって無駄なことはひとつもありません。好タイムがマークできず、結果としては何も残っていませんが、そこに至る過程で随分多くのデータをとることができました。
そうしたことの一つ一つが、最後にはモノを言うはずです。
今日のセッションでは、少しだけまともなタイムをマークすることができましたが、やはりそれでレースの本番で好結果が期待できるほど、レースは甘くありません。
来週の富士(第2回目の公式テスト)でさらにクルマを仕上げて行って、今回よりももっともっと速いクルマに仕上げて開幕戦に臨みたいです。サーキットのキャラクター的にウチのクルマとは相性がいいはずの岡山で上位に着けて良いシーズンのスタートを切りたいですね。

Driver's comment 2

ドライバー

吉本 大樹

Hiroki
Yoshimoto

http://www.hiroki-yoshimoto.com/

今回のテストでは、ちょっとだけですが"見えた"部分がありました。
初日のチャレンジが、結果的には不発に終わったことで、チームとしてやりたかったこと、予定していたテストメニューを総て消化できたわけではありませんが、それでも実りあるテストになったと思います。ただ走っていても、モニターで見ていても、ライバルたちは、まだまだ余力を残しているように見えました。(予選を想定した)一発の速さでは足りない部分が大きいのも事実ですが、ウチのクルマは本番のペースでは意外に善戦できると思います。
だから簡単に優勝とか上位を狙うというのではなく、目標(の順位)を設定したら、そこから予選や公式練習までを逆算してレースウィークを組み立てる。そういった作戦は必要になるでしょうね。
開幕戦の目標ですか。本当なら表彰台と言いたいところですが、正直厳しいところもあると思うので、先ずはポイント(10位以内で入賞)はもちろんですが、もうちょっと上、5位以内を目標にしたいですね。

Director's comment

チーム監督

小藤 純一

Junichi
Kofuji

昨日は難しい展開になりましたが、今日は朝から1日、ドライコンディションで走り続けることができ、クルマのセットアップも大きく進めることができました。そういう意味ではまず予定通りの内容と結果になったと思っています。ただし希望としては、もう一段、上のレベルまで行きたかったですね。まぁ時間的な制限もあるのでなかなか難しいところだとは思いますね。
ただこのクルマはシェイクダウンからあまりトラブルなくやってきていて、それは本当に助かっています。
もうひとつ、LMcorsaにはもう1台51号車のRCFがいて、しかもタイヤが違っているので簡単にデータを共有できない部分もあって、60号車のヨコハマタイヤに有利なサーキット/コンディションもあれば、51号車のタイヤに有利なところもある。
だから2台で切磋琢磨して行きながらクルマを早くしていきたいと思っています。